



**JASDAQ**

平成 27 年 3 月 16 日

各 位

株式会社 大塚家具  
代表取締役社長 大塚 久美子  
(JASDAQ・コード番号 8186)  
問い合わせ先  
総務部法務担当部長 番 英一  
電話 03-3599-3267

## 第 44 回定時株主総会におけるグラスルイス社 (Glass Lewis & Co., Ltd.) による 会社側役員選任議案への賛成推奨および株主提案議案への反対推奨について

平成 27 年 3 月 27 日に開催予定の当社第 44 回定時株主総会に付議する議案につきまして、議決権行使助言会社グラスルイス社 (Glass, Lewis & Co., Ltd.) が、3 月 12 日付の同社レポートにおいて、会社提案による役員選任議案 (第 2 号議案および第 3 号議案) に賛成推奨を、株主提案による役員選任議案 (第 5 号議案および第 6 号議案) に反対推奨をしていることを確認いたしました。

グラスルイス社のレポートに対する、当社の見解は下記の通りです。

### 記

まず、グラスルイス社は、大塚久美子社長の在任期間である 2009 年 4 月から 2014 年 7 月までの間に当社業績が悪化したとの提案株主側の主張について、総株主利回り (Total Shareholder Return) を分析した結果として、大塚久美子社長の在任期間中の当社の総株主利回りは、(株)ニトリホールディングスおよび(株)島忠の同業大手 2 社、消費財セクターの指数、ならびに日本株全体指数を大きく上回っていることから、大塚久美子社長の経営者としての実績について株主としての懸念を発見することはできないとし、それ故、昨年 7 月の大塚久美子社長の社長解任決定の合理性自体についても疑義を呈しています。また、提案株主が主張する ROE の比較に基づいた分析についても、外部要因を無視しており、実績評価を行う上で意味が乏しいと指摘されています。

また、グラスルイス社は、当社が平成 27 年 2 月 25 日に公表した中期経営計画(以下「当社中期経営計画」といいます)と、提案株主が公表している企業価値向上策 (以下「提案株主計画案」といいます) を比較検討した上で、当社中期経営計画は、十分な根拠を有し、当社の現在のビジネスモデルの弱点に的確に対処し、国内家具市場の変化に対応できるように構築されたものであると結論付けています。これに対して、提案株主計画案は、これに対してきちんとした反論や十分な根拠を示せておらず、当社中期経営計画以上に望ましい結果をもたらす合理的可能性を示していないと評価しています。

さらに、グラスルイス社は、当社が提示した 1 株あたり年間 80 円の配当政策について、事業投資と株主還元の適正なバランスを考えたものとして評価する一方、提案株主が主張する年間 120 円の配当政策については、当社案との比較において当社の長期的展望にとって望ましくないものと結論付けています。

最後に、グラスルイス社は、会社提案の取締役候補は、全体として、小売業界、マーケティング、金融、経営およびコンプライアンスに関する経験を含む多様な知見を有しており、その人数構成上もフレッシュな視点からと合理的な経営の連続性を両立できる構成となっていると評価し、また、監査役候補は、十分な独立性および知見を有しており、全ての株主に利益をもたらすことが可能であるとして、会社提案への賛成を推奨しています。

当社は、グラスルイス社が、上記のように、当社定時株主総会議案に関連して、会社提案と株主提案を具体的かつ客観的な論拠をもって適切に評価分析した上で、会社提案の役員選任議案に賛成を推奨し、株主提案の全ての議案に反対を推奨したことを踏まえ、株主の皆様におかれましても深慮ある議決権の行使をお願いしたいと存じます。

以上